

# 市民協働事業 相互評価シート

## 1 市民協働事業の概要

事業名称	令和5年度 港北水と緑の学校事業		
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク	
	行政	横浜市港北区	
事業の目的	港北区において、環境活動や防災活動が継続的に地域に根づくことを目指し、学校と連携し、流域の自然環境と防災などについて学習する体験型講座を実施する。また、広く一般区民向けの環境防災学習講座を実施する。		
事業の内容	(1) 小学校を対象とした環境防災学習講座の運営（18回） (2) 一般区民を対象とした環境防災学習講座の実施（2回） (3) 展示会の運営（1式） (4) 報告書作成（1式）		
役割及び責任分担等	事業項目	受託者の役割	委託者の役割
	①小学校を対象とした環境防災学習講座の運営(18回)	1 講座の企画及び運営 2 参加校との事前打ち合わせ 3 教材・資料等の作成 4 アンケートの実施回収	1 参加校の募集・申込受付 2 教材・資料等の印刷 3 広報・PR
	②一般区民を対象とした環境防災学習講座の実施(2回)	1 講座の企画及び運営 2 協力者との事前打ち合わせ 3 ちらしの版下作成・印刷 4 参加者募集事務 5 教材・資料等の作成・印刷	1 広報・PR
	③展示会の運営（1式）	1 展示会の企画及び運営 2 会場提供者との連絡調整	1 広報・PR
	④報告書作成（1式）	1 ①～③に関する報告書の作成	
⑤その他	1 第2条の事業目的を実現するために効果的と思われる取組の委託者への提案	1 上記①～④の他、第2条の事業目的に寄与する、受託者の自主的活動への後援や広報協力（後援については、委託者が定める要綱に基づく申請を要する）	
実施期間	契約締結日から令和6年3月22日まで		

記入日	令和6年4月23日
・団体等名：	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク
・記入責任者 氏名：	阿部 裕治
連絡先：	045-546-4337
・部署名：	港北区区政推進課
・記入責任者 氏名：	大橋 沙綺乃
連絡先：	045-540-2229

# 1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができていたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

## ◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

### ①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B

### ②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

### ③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

### 3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

#### 事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

##### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 小学校向け講座は、安全に十分配慮した事業の計画づくりができた。魚とりは、コロナ禍で中止していたため、3年ぶりに実施することができた。
- 一般向け講座は、川と森を活用した講座を1回ずつ設定し、幅広い内容で企画・実施することができた。昨年度アンケートの意見を生かし、WEBの専用フォームから申し込めるように対応した。
- 展示会は、展示参加校数を十分確保するため、小学校との講座の事前打合せの段階で展示会参加について伝えた。

##### 【今後改善が必要と思われること】

- 小学校向け講座の延期対応（日程の再調整等）の負担感を減らす必要がある。
- 展示会について、会場との調整や連携企画について、事前の検討や相談を十分行ったうえで進める必要がある。

#### 事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

##### 【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 小学校向け講座の実施にあたっては、両者で安全に運営する方法を検討・確認し、健康チェックや夏場の気温確認を行い、状況を踏まえて適宜改善を図った。
- 一般向け講座の実施にあたっては、前回の反省を踏まえ、鶴見川での魚とりの体験時間を十分確保した。
- 野外講座においては現場の下見を行い、安全に活動できるよう現場整備等の対応をした。
- 展示会では、期間中に1回、鶴見川水族館対応を行った。より多くの来場者に興味をもってもらうことができ、事業の案内や鶴見川の自然について知っていただくことができた。

##### 【今後改善が必要と思われること】

- 小学校向け講座の児童アンケートを見直し、講座受講前後の環境意識の変化等を測る体制を整備する必要がある。
- 小学校向け講座について、NPO法人の専門性が最大限生かされるよう講座内容や回数等を精査し、互いに無理のない事業体系に整理する必要がある。
- 展示会に成果物を出展できなかった小学校があったため、講座実施前から展示会での成果発表を意識してもらえよう、申込段階から小学校に対し丁寧に説明しておく必要がある。
- 事業実施状況をまとめた報告書の形式を見直し、報告書作成及びアンケート集計の負担を軽減するとともに、事業の成果や改善点を十分に共有できる形を模索し改めていく必要がある。

#### 事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- 区民が身近な環境問題に関心を持ち、自主的・主体的な環境行動に取り組む意識の向上につながることができた。

○川で実施した講座では、子どもたちが足もとの自然、生きものとの出会いによって、意識が変容し、環境や防災意識への興味関心につながった（アンケートの講座前後の思いの記載から把握）。展示会の作品からも環境や防災について学習を深めた様子を見ることができた。

○講座や展示会を通して、鶴見川流域水マスタープランの洪水時水マネジメント、平常時水マネジメント、自然環境マネジメント、水辺ふれあいマネジメントの理解に寄与することができた。

#### 自由記入欄

○事業開始から 20 年が経ち、全体を改めて見つめなおす打合せの機会を多く持つことができた。また、より効果的に事業を展開していけるよう、互いに協力し、前向きな姿勢で取り組むことができた。